



バングラデシュ

36 ゴラサール肥料工場 改修事業(2)

首都ダッカ近郊にあるゴラサール肥料工場の老朽化した設備を改修等することにより、エネルギー効率の改善、およびアンモニアの漏洩防止を図り、もって肥料の安定供給および環境改善に寄与する。

承諾額/実行額 54億4,300万円／54億4,300万円
 借款契約調印 1999年7月
 借款契約条件 金利0.75%、返済40年(うち据置10年)、一般アンタイド
 貸付完了 2001年11月



外部評価者 宮崎慶司 (OPMAC(株))
 現地調査 2003年7月

評価結果

本事業では、ほぼ計画通りに老朽化設備(アンモニアプラント、尿素プラント等)の改修等が行われ、期間および事業費もほぼ計画通りであった。ガスタービン発電機の導入により、安定的な電力供給が得られるようになったこととあいまって、エネルギー効率が改善されたほか、年間稼働日数が増加し、ゴラサール肥料工場の年間尿素肥料生産量は、1999年度の約32万2,000トンから、2002年度には約37万7,000トンへと増加した。同工場の01年度生産量約32万5,000トンは、同年国内総生産量約154万6,000トンの約21%、国内総供給量約206万6,000トンの約16%にあたり、バングラデシュの労働力の約62%を占める約3,600万人の農民に対する尿素肥料の安定供給に貢献している。また、環境改善の面では水中アンモニア濃度5ppm以下、大気中アンモニア濃度50ppm以下という基準をほぼ達成しており、受益者調査でも、アンモニア臭等が軽減したとの声が多

く寄せられている。実施機関であるバングラデシュ化学工業公社(BCIC)は、運営・管理にかかわる当行による調査の提言を基に各種改善活動に取り組んでおり、技術および体制面は問題ない。ただし、財務面では政策的に肥料販売価格が生産費用よりも低く抑えられていることなどから、毎年継続的に損失を計上しており、バングラデシュ政府および実施機関による尿素肥料価格体系の見直しなど、抜本的対策の検討が望まれる。

第三者意見

バングラデシュにとって農業は非常に重要であり、肥料工場を維持していくにあたっては、実施機関や農業関係者が当事者意識を持ち、援助機関も開発パートナーとして、その重要性を認識する必要がある。

有識者 Mr. A. N. M Sayeedul Haque Khan

ストラスライド大学博士課程修了(経営学)。現在ダッカ大学教授、ADAMS(NGO)委員長。専門はソーシャル・マーケティングなど。

本事業で調達された発電機とコントロールルーム



本事業で調達された発電機

発電機の新規設置により、ゴラサール肥料工場では安定した電力の供給を受けることが可能となり、エネルギー効率の改善にも寄与している。



発電機のコントロールルーム

ゴラサール肥料工場では現在約800人の職員が業務に従事している。